

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 24 年 12 月 20 日 (2012.12.20)

【公開番号】特開 2011-101327 (P2011-101327A)
 【公開日】平成 23 年 5 月 19 日 (2011.5.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-020
 【出願番号】特願 2009-256545 (P2009-256545)
 【国際特許分類】

H 0 1 P 3/02 (2006.01)

H 0 1 B 11/00 (2006.01)

H 0 1 P 5/02 (2006.01)

【F I】

H 0 1 P 3/02

H 0 1 B 11/00 G

H 0 1 P 5/02 6 0 3 C

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 11 月 1 日 (2012.11.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

誘電体の中に導体箔の信号線及び G N D が形成されて筐体に設置された場合に静電結合の影響を受ける信号伝送路であって、

前記信号伝送路を前記筐体に設置した場合のアイパターンにおける規定のマスクからのマージンが、前記信号伝送路の送信端と受信端の間で前記導体箔の形状を一定に構成した場合よりも大きくなるように前記導体箔の形状が構成されたことを特徴とする信号伝送路。

【請求項 2】

前記信号伝送路における一部領域に対して特性インピーダンスを変化させるように前記導体箔の形状を構成したことを特徴とする請求項 1 に記載の信号伝送路。

【請求項 3】

前記信号伝送路における一部領域とは、前記信号伝送路の G N D 又は導体との静電結合の強さにより定まる領域であることを特徴とする請求項 2 に記載の信号伝送路。

【請求項 4】

フラット配線材による信号伝送路において導体幅を変化させることにより特性インピーダンスを変化させるように前記導体箔の形状を構成したことを特徴とする請求項 1 に記載の信号伝送路。

【請求項 5】

前記フラット配線材は、巻き込み構造をとる機器の動きに応じて、配線材の距離が変化することを特徴とする請求項 4 に記載の信号伝送路。

【請求項 6】

誘電体の中に導体箔の信号線及び G N D が形成されて筐体に設置された場合に静電結合の影響を受ける信号伝送路であって、

前記信号伝送路を前記筐体に設置した場合のアイパターンにおける規定のマスクからのマージンが、前記信号伝送路の送信端と受信端の間で前記導体箔の間隔を一定に構成した

場合よりも大きくなるように前記導体箔の間隔を構成したことを特徴とする信号伝送路。

【請求項 7】

誘電体の中に導体箔の信号線及び GND が形成されて筐体に設置された場合に静電結合の影響を受ける信号伝送路であって、

前記信号伝送路を前記筐体に設置した場合のアイパターンにおける規定のマスクからのマージンが、前記信号伝送路の送信端と受信端の間で前記導体箔の誘電率を一定に構成した場合よりも大きくなるように前記送信端と受信端の間で誘電率が変化された導体箔を有することを特徴とする信号伝送路。

【請求項 8】

誘電体の中に導体箔の信号線及び GND が形成されて筐体に設置された場合に静電結合の影響を受ける信号伝送路であって、

前記信号伝送路を前記筐体に設置した場合のアイパターンにおける規定のマスクからのマージンが、前記信号伝送路の送信端と受信端の間で前記導体箔の厚みを一定に構成した場合よりも大きくなるように前記導体箔の厚みを構成したことを特徴とする信号伝送路。

【請求項 9】

前記アイパターンにおける規定のマスクからのマージンは、信号波形のタイミング又は電圧のマージンであることを特徴とする請求項 1 乃至 8 の何れか 1 項に記載の信号伝送路。

。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明は、誘電体の中に導体箔の信号線及び GND が形成されて筐体に設置された場合に静電結合の影響を受ける信号伝送路であって、

前記信号伝送路を前記筐体に設置した場合のアイパターンにおける規定のマスクからのマージンが、前記信号伝送路の送信端と受信端の間で前記導体箔の形状を一定に構成した場合よりも大きくなるように前記導体箔の形状が構成されたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 17】

